

■赤前地区の復興パターン案について

被害の状況	<ul style="list-style-type: none"> 防潮堤を越流し、津波の勢いが直接住宅等を襲い、市営住宅が倒壊するなど壊滅的被害を受けた。 浸水面積は82.9haにわたり、浸水高はTP+6~13mとなり、最大浸水深が7.5mに達した。 浸水区域内の建物の71.8%が流失または撤去となる被害を受け、運動公園は壊滅し、宮古工業高校も浸水した。
復興まちづくりの考え方	<ul style="list-style-type: none"> 比較的頻度の高い津波※1 に対しては、防潮堤等のハード整備により防ぎ、今後、起こりえる最大クラスの津波※2 に対しては、ハード整備とソフト対策を組み合わせた多重防災型まちづくりを行う。 住宅地は、予想浸水深※3 の大きい区域を高台等への移転による確保を検討するとともに、小さい区域は、予想される建物被害の状況に応じ現地再建及び建物の構造規制を組み合わせる。 非可住地であっても、安全に避難できるよう避難路の整備や津波避難ビル等の整備を行う。

復興パターン案	<p>案A： 予想浸水深が大きい区域は高台等への移転を行い、小さい区域は建物の構造規制を伴う。</p>	<p>案B： 予想浸水深が大きい区域は高台等への移転を行い、小さい区域は建物の構造規制を伴う。 予想浸水深が大きい区域でも面的に地盤を嵩上げし現地再建を可能とする。</p>
	<p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 非可住区域が広く移転対象戸数が多いことから、従前の場所から離れた場所でなければ確保できない場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 宮古工業高校周辺は、嵩上げすることにより再建できるが、嵩上げた地盤の安定に時間を要するため、再建に時間がかかる。

※1 概ね数十年から百数十年に一度程度で発生すると想定される津波

※2 今回と同様の津波

※3 今後、起こりえる最大クラスの津波により予想される浸水の深さ

復興まちづくりの考え方

- ・ 比較的頻度の高い津波^{※1} に対しては、防潮堤等のハード整備により防ぎ、今後、起こりえる最大クラスの津波^{※2} に対しては、ハード整備とソフト対策を組み合わせた多重防災型まちづくりを行う。
- ・ 住宅地は、予想浸水深^{※3} の大きい区域を高台等への移転による確保を検討するとともに、小さい区域は、予想される建物被害の状況に応じ現地再建及び建物の構造規制を組み合わせる。
- ・ 非可住地であっても、安全に避難できるよう避難路の整備や津波避難ビル等の整備を行う。

イメージ図

案C：予想浸水深が大きい区域は高台等への移転を行い、小さい区域は建物の構造規制を伴う。
2線堤の効果を持つ市道の改良整備を行い、背後地への浸水を抑制し現地再建を可能とする。

特徴

- ・ 宮古工業高校周辺は、現状のまま、現地再建ができる。

※1 概ね数十年から百数十年に一度程度で発生すると想定される津波

※2 今回と同様の津波

※3 今後、起こりえる最大クラスの津波により予想される浸水の深さ